

メッセージアウトライン ヨハネ15：1~8「実を結ぶために」

イエスはここでご自分をぶどうの木、父を農夫とたとえられる。(1)「わたしの枝で実を結ばないものはみな、もっと多くの実を結ぶために、刈り込みをなさいませう」(2) 農夫は木に豊かに実を結ばせるために剪定をする。これは余分なものを切り取り、実を結ぶべき実に十分栄養を与えるためのものである。そしてこの枝とは私たちクリスチャン一人一人のことを指している。刈り込みは痛みをともなうものである。「あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです」(3) これは弟子たちがイエスの今まで話されたことばによって信仰を持ったこと、その信仰によってイエスに今、現実につながっており、罪が赦されきよめられていることを示している。しかしさらにイエスは言われる。「わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります」(4) 枝がぶどうの木につながっていなければ当然、実を結ぶことができない。ぶどうの幹から豊かな養分を受けてこそ、枝は実を結ぶことができるのである。それと同様にクリスチャンもイエス・キリストという幹につながっていなければ実を結ぶことができないのである。私たちが実を結ぶということは、8節にあるように、キリストの弟子となることであり、神の栄光が現れるためのものなのである。→ I コリント10:31 さらに私たちがキリストの弟子としてキリストに似たものとして成長していくことも実を結ぶこと、また私たちの人格、性質に関して言うならば、ガラテヤ5:22~23に書かれているような御霊の実を結ぶようになっていくことである。

これらは5節で言われているように、枝としての私たちがイエス・キリストという幹にとどまっていることによって可能になることであり、イエス・キリストを離れては、私たちは何もすることができないのである。私たちは毎日の生活の中で真にイエス・キリストとの生きた関係を保っているだろうか。安易で不信仰な生き方と戦うために、神よりの恵みと力、勇気、知恵、信仰、愛をいただけるように熱心に祈り、大胆に恵みの御座に近づいているだろうか。

もし私たちがイエスにとどまっていなければ、実を結ぶことはできず、枝のように投げ捨てられて枯れてしまう。(6) これは神のさばきを意味する。私たちも名ばかりのクリスチャンとなって何の実も結ばず、最後に神によってさばかれ、永遠の滅びに入れられてしまうような者にならないように、しっかりと信仰を持ってイエス・キリストにつながっていなければならない。

「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら」(7) ここでイエスにとどまるということは、イエスのことばにとどまるのと同じであることがわかる。すなわちそのみことばを心に豊かにたくわえ、みことばに従って生きるのである。日々聖書を読み、そのみことばが教えているようにいきることが大切。「何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます」(7) 私たちはこのみことばをもっと真剣に受けとめる必要がある。私たちはもっともっと大胆に願って行ってよいのである。ただしその目的は神の栄光のため。→(8) ヲブ11:6, I ヨハネ5:14~15 私たちは生きた熱い信仰を持ってイエス・キリストにとどまり続けよう。